

## MDPRO ミニコラム：2021年度決算報告から見る医療機器企業の業績、海外売上高比率の推移

薬事工業生産動態統計や貿易統計等のオープンデータは、製品の単価や数量から算出された生産高や出荷高を知るのに良いツールですが、モノ以外のサービス等に係る金額や、海外工場から海外市場への販売実績等は含まれず、産業力全体を把握するには限界もあります。

各社の投資家向け広報(Investor Relations、以下、「IR情報」という。)にはサービス等を含む売上高や従業員数、研究開発費等、多くの情報が開示されており、海外に展開している企業のIR情報には多くの場合、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類された地域ごと(国内外)の連結売上高が開示されているため、企業活動の全体を見る上で大変有用な情報源です。

これらの利点からMDPROでは従前より国内で上場している医療機器企業のIR情報をもとにした産業動向の調査をおこなってきましたが、集計時期を早めるために会計年度(Fiscal Year、以下、「FY」と言う。)の考え方を以下のように変更いたしました。

### <MDPROにおけるFYの考え方>

従前の調査分：同年7月期から翌年6月期までの決算値を同一決算年度として集計

(例：FY20=2020年8月期、12月期及び2021年3月期、6月期)

今後の調査分：同年4月期から翌年3月期までの決算値を同一決算年度として集計

(例：FY21=2021年6月期、8月期、12月期及び2022年3月期)

従って、6月期決算期の企業分については一年前のデータをスライドし、過去分についても遡って再集計を行いました。

2022年3月期の決算報告が出揃い、各社のホームページ等でIR情報が開示されましたので、上記の考え方に沿って再集計したFY17からFY21のデータを元に分析を行っている中から、今回は以下の2点についての検討結果についてご報告いたします。

- 1)医療機器関連企業全体の年間売上高の推移(材料系/機器系企業別、売上規模別)：FY17～FY21分
- 2)海外(地域別)売上高比率の推移：FY17～FY21分

### <調査対象企業：文中企業名は(株)を省略して記載>

医療機器産業の規模を知る上で、可能な限り医療機器に関連したセグメントの情報に絞るため、医療機器単一セグメントもしくは全セグメントにおいて医療機器を含む企業、または医療機器を含む最小セグメント(ヘルスケア、ライフサイエンス、医用機器等)の情報が開示されている企業を収集対象とし、FY17からFY21の売上高が比較できる44社について表1に示しました。

昨年の医機連通信291号のMDPROミニコラム<sup>1)</sup>でのご報告の際に調査対象とした44社のうち、上場廃止となったエイアンドティーの事業についてはトクヤマのライフアムニティセグメントに統合されましたが、医療以外の売上との区分が難しく、今回は対象から除外いたしました。

ニチバンについては、文具事務用品や産業用テープ等のテープ事業と絆創膏等のメディカル事業が明確に区分できることがわかり、今回から調査対象に追加し、過去データについても遡及追加をいたしました。また、FY21からメディカルシステム事業の売上高が開示されるようになった富士フィルムや、2021年10月に上場したPHCホールディングス、並びに、臨床検査事業の大手であるH.U.グループホールディングスについても今後収集対象とすることとし、FY21のデータのみ参考値として表1に掲載しました。

### <調査項目>

表1には調査対象として採用した医療機器関連セグメント名、セグメント内に含まれる主要製品・事業内容、FY21として採用したデータの決算年月、FY21、FY17のセグメント内の売上高、FY16～FY21の年平均成長率(CAGR)、セグメント内の海外売上高比率を掲載しました。

海外売上高比率については、企業全体では地域ごとの売上高が開示されていても、セグメント内の地域ごとの売上高が開示されていない場合には「NR」と表示しました。海外売上高比率が10%未満の場合は通常情報非開示であるため、「10%未」と表示しています。

さらに、後段での医療機器関連企業全体の年間売上高の推移(材料系/機器系企業別)の分析を行うため、各企業のIR情報の主要製品・事業内容から類推して各企業を材料系か機器系かに大別し、表1の最右欄に示しました。

表1：医療機器関連企業(調査対象44社+参考3社)の一覧 出所：各社IR情報より筆者作成

※掲載順はFY21の売上高の高い順。売上高、海外売上比率はセグメント内の数字。NR=Not Reported

No.	企業名	医療機器関連セグメント名	主要製品・事業内容	決算年月	売上高(百万円)		CAGR	海外売上比率	区分
					FY21	FY17			
1	オリンパス	内視鏡 治療機器 その他	内視鏡、医療サービス、消化器科処置具、泌尿器科製品、呼吸器科/耳鼻咽喉科/婦人科製品、生体材料、整形外科用器具	2022年3月	749,762	626,183	4.6%	84.2%	機器
2	テルモ	全セグメント	血管造影用ガイドワイヤー・カテーテル、人工心肺、ステントグラフト、針、シリンジ、輸液・シリンジポンプ、体温計、血糖測定器、血液バッグ、血液成分分離装置、医薬品	2022年3月	703,303	587,775	4.6%	70.7%	材料
-	富士フイルム	メディカルシステム事業(ヘルスケア部門)	メディカルシステム機材、バイオ医薬品製造受託、細胞・培地・試薬等の創薬支援材料、医薬品、化粧品	2022年3月	533,819 (801,743)	- (443,000)	- (16.0%)	NR	-
3	キャノン	メディカルビジネスユニット	CT装置、超音波診断装置、X線診断装置、MRI装置、検体検査装置、眼科機器	2021年12月	480,029	434,985	2.5%	56.2%	機器
4	旭化成	ヘルスケア(医薬・医療+クリティカルケア)	医薬品、診断薬、血液透析・アフレス(血液浄化療法)関連機器、AED、除細動器	2022年3月	415,883	296,300	8.8%	76.6%	材料
5	HOYA	ライフケア事業	眼鏡レンズ、コンタクトレンズ、内視鏡、処置具、眼内レンズ、人工骨、整形インプラント	2022年3月	407,549	352,872	3.7%	67.5%	材料
6	ニプロ	医療関連	注射・輸液関連、人工臓器関連、高機能関連、透析関連の医療機器、医薬品	2022年3月	373,481	300,117	5.6%	46.7%	材料
7	シスメックス	全セグメント	検体検査試薬、検体検査機器	2022年3月	363,780	281,935	6.6%	83.6%	機器
8	日本光電工業	全セグメント	生体計測機器、生体情報モニタ、治療機器、医療支援システム、検体検査機器	2022年3月	205,129	174,249	4.2%	33.5%	機器
9	帝人	ヘルスケア	医薬品、HOT用酸素濃縮装置、CPAP用治療器、在宅医療サービス、その他ヘルスケア関連製品	2022年3月	183,563	155,370	4.3%	NR	材料
10	オムロン	ヘルスケア	電子血圧計、ネブライザー、低周波治療器、心電計、電子体温計	2022年3月	132,857	108,489	5.2%	79.0%	機器
11	フクダ電子	全セグメント	心電計、ポリグラフ、超音波画像診断装置等の生体検査装置、生体情報モニタ、カテーテル、人工呼吸器等の治療装置、消耗品	2022年3月	132,098	128,883	0.6%	10%未	機器
12	コニカミノルタ	ヘルスケア事業	画像診断システム(X線画像診断、超音波診断システム)、遺伝子検査、プライマリケア関連サービス、創薬支援	2022年3月	109,930	96,513	3.3%	NR	機器
-	PHCホールディングス	糖尿病マネジメント	血糖自己測定システム、POCT製品等の体外診断機器、電気式医薬品注入器	2022年3月	109,367	-	-	93.7%	-
13	メニコン	全セグメント	コンタクトレンズ及びケア用品	2022年3月	100,172	76,672	6.9%	25.6%	材料
14	ニコン	ヘルスケア事業	生物顕微鏡、細胞培養観察装置、超広角走査型レーザー検眼鏡	2022年3月	73,243	56,818	6.6%	82.7%	機器
15	日機装	医療部門	血液透析関連製品、急性血液浄化装置、除菌消臭装置	2021年12月	73,136	55,684	7.1%	33.0%	機器
16	島津製作所	医用機器	X線TVシステム、X線撮影システム、血管撮影システム、PETシステム	2022年3月	66,894	65,916	0.4%	43.2%	機器
-	H.U.グループホールディングス	臨床検査薬事業	子会社である富士レビオ・ホールディングスの事業(ルミパルス事業、OEM・原材料供給事業等)	2022年3月	64,335	-	-	-	-

表1：医療機器関連企業(調査対象44社+参考3社)の一覧 続き 出所：各社IR情報より筆者作成

No.	企業名	医療機器関連セグメント名	主要製品・事業内容	決算年月	売上高(百万円)		CAGR	海外売上比率	区分
					FY21	FY17			
17	朝日インテック	全セグメント	血管内治療用ガイドワイヤー・カテーテル	2021年6月	61,507	42,709	9.5%	70.5%	材料
18	カネカ	ヘルスケアソリューションユニット	ASO 治療用血液浄化装置、カテーテル、脳動脈瘤塞栓コイル、低分子医薬品原料、API、バイオ医薬品	2022年3月	58,936	45,856	6.5%	NR	材料
19	ジェイ・エム・エス	全セグメント	輸液、経腸栄養、透析、人工心肺、カテーテル、急性血液浄化、血液・細胞分離、細胞関連デバイス、医薬品	2022年3月	58,169	56,520	0.7%	31.6%	材料
20	トプコン	アイケア事業	3次元眼底像撮影装置、眼底カメラ、トノメーター、手術用顕微鏡、視力検査装置、他	2022年3月	57,352	46,515	5.4%	NR	機器
21	東レ	ライフサイエンス	医薬品・医療機器(血液透析ろ過用ダイアライザー、他)	2022年3月	51,954	53,800	-0.9%	15.3%	材料
22	日本ライフライン	全セグメント	リズムデバイス、EP/アブレーション、外科関連、インターベンション	2022年3月	51,469	42,298	5.0%	10%未	材料
23	ナカニシ	歯科製品関連事業	治療用ハンドピース、技工用マイクロモーター&ハンドピース、外科用ハンドピース及び滅菌器等	2021年12月	39,645	29,706	7.5%	81.0%	材料
24	ホギメディカル	全セグメント	医療用消耗品、医療機器(手術用品、滅菌用品、R-SUD 製品)及び医療用不織布製品等	2022年3月	36,778	36,918	-0.1%	10%未	材料
25	東洋紡	ライフサイエンス	診断薬用酵素等のバイオ製品、医薬品、医用膜、医療機器(神経再生誘導チューブ、骨再生誘導材、人工腎臓用中空糸膜)等	2022年3月	35,003	35,723	-0.5%	NR	材料
26	シード	全セグメント	コンタクトレンズ・ケア用品、眼鏡	2022年3月	28,835	27,827	0.9%	12.7%	材料
27	堀場製作所	医用	血球計数装置、免疫測定装置、生化学用検査装置、血糖値検査装置	2021年12月	25,882	25,187	0.7%	79.6%	機器
28	松風	デンタル関連事業	人工歯類、研削材類、金属類、加工品類、セメント類、機械器具類	2022年3月	25,876	21,446	4.8%	52.8%	材料
29	エー・アンド・デイ	医療・健康機器事業	家庭用デジタル血圧計、血圧監視装置、全自動血圧計、精密体重計、超音波吸入器等	2022年3月	21,534	17,445	5.4%	74.2%	機器
30	メディキット	セグメントなし	人工透析用留置針、静脈留置針、イントロデューサー、血管造影用カテーテル	2022年3月	20,131	17,445	3.6%	9.7%	材料
31	日本電子	医用機器事業	自動分析装置、臨床検査情報処理システム、全自動アミノ酸分析機	2022年3月	19,258	19,382	-0.2%	NR	機器
32	日本エム・ディ・エム	全セグメント	整形外科分野の医療機器(人工関節、骨接合材料、脊椎固定器具)	2022年3月	19,193	14,808	6.7%	36.8%	材料
33	ニチバン	メディカル事業	絆創膏、止血製品、術後ケア	2022年3月	18,919	20,538	-2.0%	10%未	材料
34	マニー	全セグメント	手術用機器(皮膚縫合器、眼科ナイフ等)、手術用針付縫合糸、手術用縫合針、歯科用根幹治療機器、歯科用回転切削機器、歯科材料	2021年8月	17,190	20,103	-3.8%	78.5%	材料
35	リオン	医療機器事業	補聴器(補聴器、難聴者訓練用機器等)、医用検査機器(オージオメータ、聴力検査室等)	2022年3月	11,707	11,537	0.4%	NR	機器
36	クリエートメディック	セグメントなし	ディスプレイカテーテル・チューブ	2021年12月	11,698	10,393	3.0%	29.9%	材料
37	テクノメディカ	セグメントなし	採血管準備装置・システム、検体検査装置、採血管等の消耗品	2022年3月	9,699	8,654	2.9%	10.7%	機器
38	プレジジョン・システム・サイエンス	セグメントなし	DNA 自動抽出装置、免疫化学発光測定装置、臨床検査用の検体前処理装置、全自動 PCR 検査装置、試薬・消耗品等	2021年6月	9,298	3,847	24.7%	70.7%	機器

表 1：医療機器関連企業(調査対象 44 社+参考 3 社)の一覧 続き 出所：各社 IR 情報より筆者作成

No.	企業名	医療機器関連セグメント名	主要製品・事業内容	決算年月	売上高(百万円)		CAGR	海外売上比率	区分
					FY21	FY17			
39	川本産業	メディカル事業	衛生材料、医療用品(口腔ケア製品、手術関連製品等)、介護用品等	2022年3月	8,619	8,187	1.3%	10%未	材料
40	大研医器	セグメントなし	吸引器、麻酔関連製品(注入器、電動ポンプ)、手洗い設備関連	2022年3月	8,540	8,585	-0.1%	10%未	材料
41	パイオラックス	医療機器	IVR(血管内治療)、内視鏡治療(消化器内視鏡ガイドワイヤ等)及び脳外科用整形治療機器	2022年3月	4,535	4,009	3.1%	NR	材料
42	日本アイ・エス・ケイ	デンタル関連事業	歯科医療に関する設備・機器類	2021年12月	1,927	1,441	7.5%	10%未	機器
43	オーベクス	メディカル製品事業	薬液注入器、血管造影用ガイドワイヤー等	2022年3月	1,411	1,365	0.8%		材料
44	日本フェンオール	メディカル部門	人工腎臓透析装置	2021年12月	1,290	1,406	-2.1%	NR	機器

＜集計方法・結果＞

1)医療機器関連企業全体の年間売上高の推移(材料系/機器系企業別、売上規模別)：FY17～FY21 年

表 1 の No.1~44 の 44 社分の売上高を材料系/機器系企業別に集計し、FY17～FY21 の売上高を積み上げ棒グラフで、FY18～FY21 の対前年増減比(FY17 については FY16 の値が無い企業もあるため)を折線グラフで図 1 に示しました。

また、同じく 44 社を FY21 の売上高の 1,000 億円以上の企業(No.1~13 の 13 社分)と、1,000 億未満の企業(No.14~44 の 31 社分)に大別し、同様の指標で図 2 に示しました。

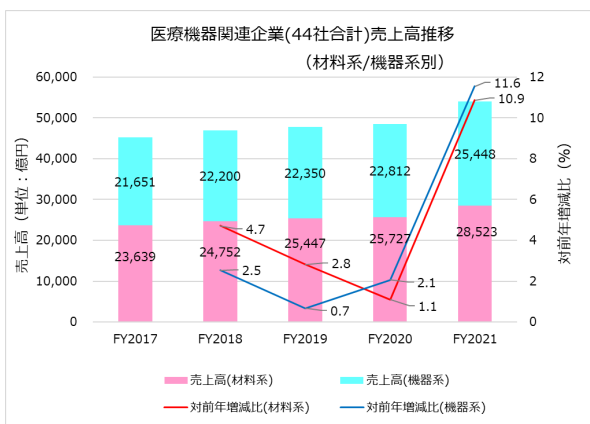


図 1：医療機器関連企業売上高推移(材料系/機器系別)

出所：各社 IR 情報より筆者作成

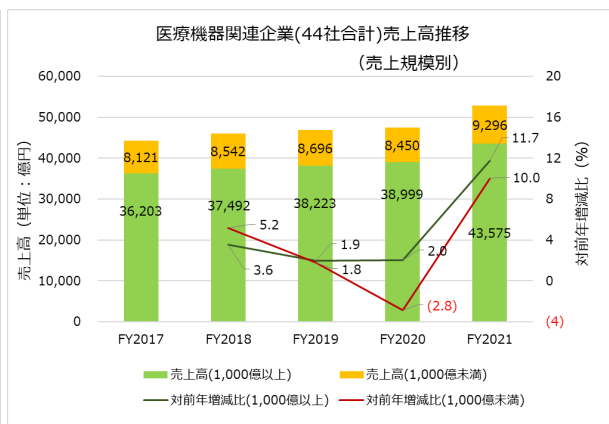


図 2：医療機器関連企業売上高推移(売上規模別)

出所：各社 IR 情報より筆者作成

昨年の調査時点で、材料・機器両系とした企業 6 社のうち、旭化成、テルモ、松風は材料系、日機装、日本光電、プレジジョン・システム・サイエンスは機器系と大別したため、特に材料系の振れ幅は小さくなりました。しかしながら、図 1 に示す通り、対前年増加比の低下からの回復は、機器系のほうが早く、材料系のほうが若干遅れての回復となった、という傾向は昨年報告と同様です。

さらに FY21 では材料系、機器系共に回復傾向が伺えますが、FY17～FY21 間の CAGR を見てみると、材料系では 4.8%、機器系では 4.1%であり、FY18 の対前年増加比(材料系 4.7%、機器系 2.5%)をコロナ禍前の水準とすればそれを超えていることがわかります。

図2においては、FY21の売上規模1,000億以上の企業分の合計ではコロナ禍下のFY19、FY20であっても対前年増減比はマイナスにはなっていないものの、1,000億未満の企業分の合計では、FY20に対前年度増減比がマイナスとなっており、回復の遅れが見えます。

FY21にはいずれも回復傾向が見られますが、FY17~FY21間のCAGRでみると1,000億以上の企業で4.7%、1,000億未満の企業で3.4%であり、1,000億未満の企業の合計においてはFY18時点の水準までには回復していないことがわかります。

## 2) 海外(地域別)売上高比率の推移：FY17~FY21分

企業によっては有価証券報告書だけでなく、決算説明資料や決算説明補足資料、FACTBOOK等の中に、セグメント内の詳細な情報を開示している場合もあり、それらを見ていくことでセグメント別・地域別の売上高等のデータを収集することが可能です。

表1の44社のうち、海外(地域別)の売上高が開示されている27社についてFY17からFY21の地域別の売上高比率の推移を図3に示しました。(但し、FY17のみニコンとHOYAを除く25社分)

日本以外の地域の分類は企業ごとに若干異なるため、大まかに以下のとおり分類しました。

- ・米州：米州(一部、南米を含むものもあり)、北米、アメリカ、米国、等
- ・欧州：欧州・ヨーロッパ(一部、ロシアを含むものもあり)、等
- ・中国(アジアとは別に記載があるもののみ)：中国、中国圏(台湾、香港を含む)、等
- ・アジア：中国を含むアジア全体、中国以外のアジア(一部、オセアニアを含むものもあり)、等
- ・その他：日本以外の海外(上記区分の無い企業)、上記以外でその他と記載のあるもの、等

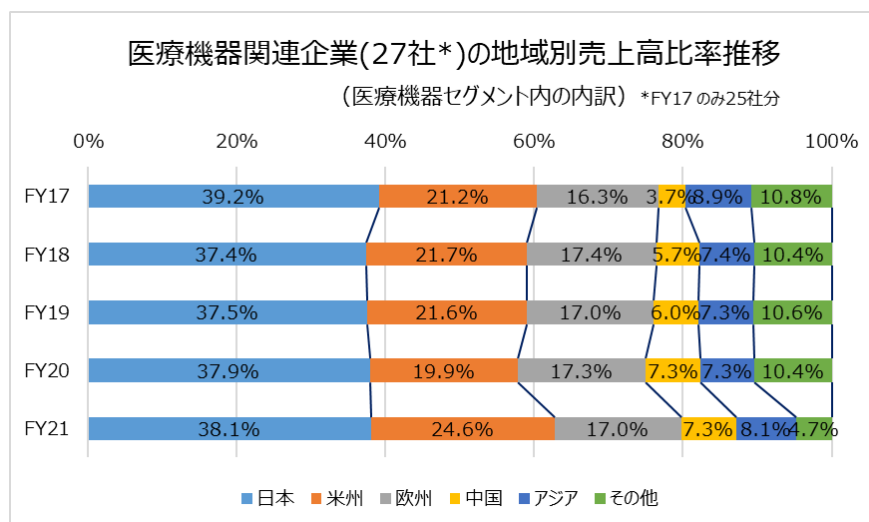


図3：医療機器関連企業(27社)の地域別売上高比率推移

出所：各社IR情報より筆者作成

27社分の集計であるFY18以降でみると、医療機器関連企業海外売上高比率はほぼ同じまたは微減という状況ですが、詳細には為替の影響などもあるかと思えます。

また、FY21の海外の中での地域別の内訳を見ると、FY20に比べて米州分が+4.7%ポイント(以下、「%pt」と示す。)、欧州分が-0.3%pt、中国分は増減なし、アジア分が+0.8%pt、その他が-5.7%ptとなっていますが、その理由としては大手企業において米国の売上比率が高くなったり、昨年までその他等に入っていた中国分を今年から開示し始め(その結果、開示されたFY20の中国・その他分を修正し)たりと、売上高の高い企業の影響が支配的であったという結果となりました。

近年、異業種からの医療機器産業への参入も多く、また、非上場であっても高い売上高を示す企業等、注目すべき企業が多々あります。さらに、事業買収やセグメント統廃合等、5年の間でも様々な変化がありました。

冒頭に、IR 情報ではサービス等を含めた企業活動全体がわかることが利点であると述べましたが、一方で、医療機器単体の事業であった企業がヘルスケア全体やプラットフォームも含めた企業活動に発展してくると、どこまでの範囲を医療機器関連とするか、という課題を常に考えていく必要があります。


そういった課題を念頭に置きつつ、引き続き MDPRO では可能な限り幅広い情報収集と様々な条件を設定して医療機器産業の一面を切り取れるような分析手法や可視化の検討を継続していく予定です。

◇出典

1) (一社)日本医療機器産業連合会, MDPRO ミニコラム:医療機器関連企業の2019、2020年度決算報告からみた業績について,医機連通信291号, 2021/9/15,

<[https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0\\_20210915\\_%E7%AC%AC291%E5%8F%B7re.pdf](https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0_20210915_%E7%AC%AC291%E5%8F%B7re.pdf)>

(医療機器政策調査研究所 小濱 ゆかり 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  [@JFMDA\\_MDPRO](https://twitter.com/JFMDA_MDPRO)  
Twitter で医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。